

農事組合法人「犬甘野営農組合」組合長

北條孝造さん

亀岡市犬甘野地区で、30年近く前に地域の農家で設立し、農地と組合員の暮らしを支えてきた農事組合法人「犬甘野営農組合」。今春に11代目の組合長に就任した北條孝造さん(69)は「組合で経営する農産物直売所は、京都市内だけでなく大阪や兵庫から多くの人が来てくれる。犬甘野の自然と先人の地域を挙げた取り組みがあったのことで、とても感謝している」と話す。

同地区は、市街から西に約10キロ、大阪府池田市や高槻市からは20〜25キロに位置する標高400以上の高地で、四方は山に囲まれた山間地だ。同組合では地域全体の農地42畝のうち11畝を利用集積し、水稻

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

を中心に栽培する。

「土づくりにには特にこだわっている」と北條さんは話す。減農薬、減化学肥料で、堆肥や有機質肥料を使った土づくりに、地域全体で取り組む。

2004年には同組合だけでなく、ほぼ全員の農家がエコファーマー認定を取得する徹底ぶりだ。そのかいあって「犬甘野の米はおいしい」と好評で、直売所には固定だけでなく、口コミで新たな客も増えているという。



▶犬甘野の自慢の米を紹介する北條さん

土づくりにこだわら

もう一つの売りが「犬甘野そば」だ。山間地でこれといった特産物がなかったが、ソバの生産に取り組み、同市特産のヤマイモをつなぎにしたそばを打って販売する事業を興した。北條さんは「親の時代の取り組みで、相当な苦労があったと思う」と話す。今ではそば打ちのノウハウが出来上がり、雇用も生み出し、市の名物の一つになっている。

J A京都の農畜産物直売所「たわわ朝霧」では半生そばで販売し、

人気だ。同直売所は6月に「ほたるのふるさとコンサート」、11月に「秋の味覚ふるさとフェア」を毎年開き、多くの客が訪れる。

北條さんは「地区も高齢化が進み、後継者不足が心配だが、ソバの栽培面積を増やし、犬甘野そばの販路も増やしたい。消費者との交流で客が増え、地域が元気になり、こうした姿を子どもが見て次代に受け継がれるように頑張りたい」と話す。

■法人所在地 亀岡市西別院町犬甘野樋ノ口1の2。(電) 077-1(27) 21809。

■法人概要 1988年設立。組合員56人。理事6人、監事3人、役員21人、婦人部6人、店舗従業員(パート含む)4人。経営面積11畝(ソバ3・4畝、水稻「コシヒカリ」「キヌヒカリ」、もち米など)。農機具 2コンバイン3台、トラクター2台、田植え機2台、ショベルローダー・ミニユアスプレッダー・管理機各1台、もみ乾燥機1台。農産物直売所の犬甘野風土館「季菜」は20台駐車可。平日午前9時〜午後5時営業で店内飲食は午前10時〜午後4時。定休日は木曜日と年末年始。